

この世界に核兵器も原発もいらないー核兵器禁止条約の制定で

一日も早い「核兵器のない世界」を実現させよう！

彩の国からのアピール

私たち、核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）は“この世界に核兵器も原発もいらない（彩の国から核兵器禁止条約の制定を）”をテーマに2011年11月5日～6日に、首都圏・埼玉で「第22回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 埼玉」を開催、408名が集いました。

1945年にヒロシマ、ナガサキで人類最初の米国による核兵器原子爆弾の被害を受け、1954年には米国のビキニ環礁での水爆実験で第五福竜丸をはじめとする多数の鮪延縄漁船が3度目の放射能による被ばく被害を受けた私たち日本国民は、「核兵器は人類と共存しない」として核戦争反対と核兵器の廃絶を求める運動を行ってきました。

昨年のNPT再検討会議で「核兵器禁止条約」の交渉の開始を要求する運動が盛り上がりましたが、その後の核保有国などの抵抗により、核兵器廃絶の課題が後方に追いやられる危険性がある情勢です。

来年には、2015年のNPT再検討会議に向けて準備会議が開催されます。今こそ、一日も早い「核兵器のない世界」の実現に向け、「核兵器禁止条約」の交渉開始の声を大きく上げようではありませんか。私たちは、「核兵器禁止条約」を推進するキャンペーン（ICAN）を、核兵器の廃絶を願う多くの人々と共同してすすめる決意です。

2011年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震による東日本大震災が発生しました。東京電力福島第一原子力発電所は、地震による破損と大津波による全電源喪失により、緊急炉心停止はしたものの、冷却機能を失い、炉心はメルトスルーを引き起こし、3回にわたる水素爆発により、大量の放射性物質を大気中にばら撒きました。多くの国民が被ばくし、土壌や食品などの放射能汚染を引き起こしました。日本国民の第4度目の被ばくと言えるものです。

これに先立つ、1979年米国スリーマイル島原発、1986年ソ連チェルノブイリ原発事故による放射能汚染を経験してきたにも関わらず、政府・電力会社（東電）は、「日本ではありえない事故」と軽視し、「原発安全神話」を喧伝してきました。

今回の原発事故による放射能汚染は、地震による被害予想を指摘されてきたにもかかわらず対策を取らず、起こるべくして起きた事故でした。人類がコントロール不能の核エネルギーの脅威をまざまざと見せつけられた今日、これ以上の「ヒバクシャ」をつくらないために、核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求めるとともに、すべての原発の速やかな停止を要求し、原発ゼロを目指す国づくりに向かって前進する世論形成をしていきましょう。

2011年11月6日

「第22回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 埼玉」